

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム グリーンハウス
日付	平成16年4月27日
評価機関名	社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
評価調査員	・病院（老人病棟）での看護業務 経験18年 ・病院での相談援助業務 経験11年、家族介護 経験13年
自主評価結果を見る（事業者の自主評価結果にリンクします）	
評価項目の内容を見る（岡山県の定めた評価項目へリンクします）	
事業者のコメントを見る (評価結果に対する事業者の改善状況についてコメントがあります！)	

外部評価の結果

簡評
全体を通して（特に良いと思われる点など）
建物の構造は平屋のゆったりとしたスペースであり、その中に定員9人ずつの2ユニットを配置している。ホーム内の高い天井は開放感があり、採光にも優れている。お天気の良い日は、天井の明かり採りから自然の光がとり入れられる構造になっている。建物内全体が、やわらかい色遣いや、木の暖かさを感じさせる家具を配置するなど、落ち着きを感じさせるような配慮がなされている。 ホーム内は、全てバリアフリーになっており、各所に転倒を防止するため手すりが設置されている。要所にはソファや腰掛などが配置されたり、くつろぎスペースが設けられるなど、高齢者の機能低下に対応する配慮がなされている。家具やソファなども角に丸みがあり、危険防止に気を遣っている。 全体的に明るく家庭的で、施設らしさを感じさせない雰囲気作り力を入れている。また、入居者一人ひとりの生きてきた生活歴に配慮し、自立心を大切に、温かく見守っていく姿勢がうかがえる。常に、入居者の意見を尊重して、生活をしていることがうかがえる。入居前よりは介護度がよくなる入居者や、入居後に睡眠剤の常用がなくなった方もあり、質の高い、寄り添うケアがなされていることは高く評価できる。 スタッフも、常に「もっと気持ちよくすごしていただくには」という前向きの姿勢がある。また、「グループホームは一人ひとりが見えて、個別的な対応ができるので、働く幸せを感じる」という熱意を持ったスタッフが多いことも、この施設の優れている点である。働く環境にも配慮し、スタッフの個性が生かせる環境作りがなされている。
特に改善の余地があると思われる点
多くの点で優れていると感じるが、欲を言えば次の点が挙げられる。 ホームの理念は、誰にでも分かりやすい親しみやすい表現であるが、来所者の目に付きやすい位置に掲示された方が望ましい。 ミーティングとカンファレンスは、それぞれの目的と内容を明確にして区別し、話し合いの過程で出たさまざまな意見についても記録に残すようにし、今回取り上げられなかった意見についても尊重するようになったほうが良いと考える。特に、一人ひとりの職員の発言を大切に、次で生かされる工夫を期待する。 入居者を「ちゃん付け」で呼んでいるが、これは社会化の程度をはかるバロメーターであり、支援者と入居者の立場を表すものである。どのように説明しようとも到底対等な関係とは思われない。入居者一人ひとりの尊厳を損なわないよう職員会議や研修を通して、早急な改善が必要と思われる。

運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>「毎日、楽しく、明るく、暖かく、みんな仲良く」をモットーに、家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活を送っていただけるようにとの思いで、日々の取り組みがなされている。スタッフ全員が、痴呆性高齢者と時間をともにできるホームでの生活に、働く喜びを感じており、関わりにおいては、一人ひとりの個性や特技を活かせるような働きかけを目指している。</p> <p>具体的にはお花見、ソーマン流し、紅葉狩り等、季節を感じられるイベントが計画されている。また、庭では季節の花作りや野菜作りもでき、入居者が自分の興味のあることに自主的に参加できるような取り組みがなされている。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境づくり		
4	建物の外周や空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<p>スタッフが入居者のペース、性格にあわせて生活の流れを温かく見守っている。昼コーナーにはホームコタツを設置し、壁には入居者や入居者の友人の作品等を展示してあったり、入居者手作りのいすや配置してあったりと、環境作りにもさまざまな工夫が見られる。貼り絵や読み聞かせ、百一首など入居者の興味に焦点を合わせた生活支援をし、どのスタッフも落ち着いたやさしい対応ができている。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<p>通常、居室のドアは閉められており、一人ひとりのプライバシーが守られている。昼間入室の際は必ず声かけで了解を得ている。夜間就寝時の見回りについては、事前に入室の必要性を説明し、ご家族や本人から同意を得ている。「親しき仲にも礼儀あり」の言葉を重んじ、特に羞恥心が大きいと感じられるトイレ介助や入浴介助にはプライバシーの保護ということを中心とした対応がなされている。 入居前の入居者の得意分野は、生活の中で自然に生かされるような働きかけが行われているが、意図的な取り組みは、とすれば強制になりがちということをしかり認識されて対応されている。利用者の個別性を重視し、何をしたら喜ばれるか、どのような形なら負担なく経験が生活の中で生かされるかを、しかり見極めた対応がなされている。</p>		

運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
	<p>問題発生を契機にする以前に、日ごろから入居者や家族とより良いコミュニケーションをとり、信頼関係を築くようにしている。常に目配り、気配り、心配りを心がけ、問題が発生しないようにとの思いで、日々の取り組みがなされている。ご家族の方も含めた、生活しやすい環境作りに取り組んでいる。 また、問題が発生したら、事故報告書を作成し、原因の究明、再発防止に向けての話し合いや取り組みがなされている。必要に応じては、市への通報もなされている。 日々違う高齢者の状況に、いつでも誰でも同じように対応できることを目標に、日々の取り組みがなされている。</p>		